

# 会報

## ◇奈良大学史学会総会

五月三十一日(土)、本学に於いて、第十五回奈良大学史学会総会を行った。一九九六年度の決算・会計監査報告及び事業報告を行い、ついで一九九七年度の役員人事案・事業計画案とこれに伴う予算案を提出し、それぞれ原案どおり承認された。

一九九七年度の役員は以下の通り。

▽会長 明石 岩雄

▽副会長 藤井 學

▽教員委員

(編集) 菅野 正

(監査) 青木 芳夫

守山 記生

(庶務・会計) 明石 岩雄

(庶務・交換) 森田 憲司

▽学生委員

(代表) 高倉 啓輔

(副代表) 戸塚 裕介

(総務・渉外局長) 水原 理絵

(広報局長) 湯本 可奈

(編集局長) 田中 元浩

(青垣祭企画実行局長) 古市 一志

(四回生委員) 秋山 亮 生田 忠士 池内 幸介

上田 英志 帯金 鈴子 加藤 克郎 佐藤 嘉亮

下山 聡美 菅原 大輔 竹内 誠 田中 康大

中村 光恵 西澤 敏昭 西田クミ子 羽賀 由佳

花沢 一秀 藤原 夏来 安本 稔行 山本 和幸

吉田 亮三

(三回生委員) 芦澤 京介 石田 俊一 大見 剛彦

久山 良子 副島志津代 豊嶋 睦 鳥山 剛

藤田 梨恵 堀 美由紀 森本 博史 中野由美子

(二回生委員) 生駒 智 岡本由希子 梶谷 泰志

川上 裕司 川崎 雅之 川野 哲 鳥袋 静佳

杉浦 茜 都築 隆人 土屋 裕美 東條 弘周

中内 百恵 野村威都子 林 勇樹 福山 麻衣

藤田由美子 本郷 統章 道田 悦康 森田 稔

吉村 文克 吉用 直江 依光 讓治 和田 寛樹  
(一回生委員) 愛甲 直宏 小田 奉路 垣下 高継  
神崎 前 神田 徳紳 神戸 雄佑 木下 一誠  
木村 祐子 小森智香子 坂本 真吾 佐藤 恵  
柴田芽求美 曾田 洋子 竹内 通泰 二宮 猛  
長谷川 曜 松本 祐也 耳塚 恒司 森安 優雄  
安田 道人 山形 和也 吉田 貴俊

◇特別講義

五月三十一日(土)、史学会総会に引き続き、特別講義が行われた。

講師・演題は以下の通り。

大宮 守友氏(奈良県立斑鳩高等学校教諭)

「奈良奉行と奈良町」

王 暁秋氏(北京大学歴史系教授)

通訳・蘇 徳昌氏(奈良大学教授)

「中日文化交流の先駆者―羅森―」

◇現地見学会

本年度の春期現地見学会は、六月十五日(日)に、大和郡山市にある大和民俗博物館を訪ね、奈良の民衆史や伝統的な風習について学んだ。県外出身者の多い本学学生に

とっては、興味深いものであった。

秋期現地見学会は、十一月十六日(日)に、本学の水野柳太郎教授に引率していただき、東大寺を中心に見学した。本学学生を中心に多数の参加をみて、有意義な見学会であった。

又、一回生の学生委員が企画した奈良町WALKにおいては、レジュメ作成にあたって鎌田道隆教授及び北村麻子講師に御協力いただき、いにしへの街並みに残る史跡や博物館を見学した。

◇伝統工芸体験ツアー

本年度からの試みとして、日本の伝統工芸を体験するツアーを企画した。

第一回は六月二十九日(日)、吉野村にある「紙すきの里」を訪れ、吉野和紙漉きを体験した。減多にできない貴重な体験であったためか他学科の学生の参加も多く、非常に好評であった。以降も続けていきたい企画である。

◇卒業論文中間報告会

毎年十一月初旬に行っている当企画であったが、卒業論文提出締切の変更に伴いこの時期での開催が難しくなった。しかし、後輩の大いなる参考にもなるため、年明けに

時期を移しての開催を予定している。

#### ◇青垣祭

「大衆文化しるるわし」をテーマに展示発表を行なった。人形による花魁道中や遊廓の様子の再現、花魁某人形の制作体験コーナーの設置、研究冊子の発行等を行なったが期間中は三百名以上の来場者があり、その内容に関しても多くのお褒めの言葉をいただき、成功といえるものであった。御協力いただいた関係の方々には深く感謝申し上げる次第である。

#### ◇「史学会会報」の発行

月一回発行した「史学会会報」は、紙面を刷新して、史学会の企画案内、奈良の史跡や祭事紹介等を掲載した。また例年に引き続き、一回生の参照用に「講読紹介」、本学の先生方に推薦図書を挙げていただいた「歴史学への扉」を発行した。

#### ◇会員動向

○青木芳夫氏（西洋近現代史担当）は、九月二十六日にベルギーの国会議員でありジャーナリストであるデニス・バルガス氏の訪問を受け、日本におけるケチュア語教育について歓談した。

#### ○菅野 正氏（東洋近現代史担当）

明石岩雄氏（日本近現代史担当）

は八月二十二・二十三日に、中国・大連市で開催された中日関係史学術討論会に参加し、左の通りの研究報告を行った。

菅野 「日露戦争後、満州還付をめぐる」

明石 「南潯鉄道国有化問題と『満州事変』」

両氏はまた討論会の部会の司会をそれぞれ担当した。その後、日清戦争、日露戦争、満州事変の史跡の地である瀋陽（奉天）、大連、旅順を調査、見学した。

#### 平成八年度史学科卒業論文題目

##### 【日本史】

古代の皇親について

石井 秀樹

― 八世紀の諸王 ―

古代蝦夷について

井上 理子

古代における官司の統合について

上原 治

采女貢進制について

上林 香苗

菅原道真に関する一考察

岡田 周作

奈良時代後期の官制について

川上 俊幸

道慈の律師辞任説について

川岸 利江

「家」の中での女性の役割と立場―

上村健太郎

道祖王について

小谷 武史

荒木村重の謀叛についての一考察

毛利水軍に関する一考察

八世紀後半の僧綱について

鈴木美千代

川内警固衆を中心に―

胡子 喜弘

宇多上皇について

竹田 紀衣

―出家以後を中心に―

中世文芸・芸能に現れる鬼の諸相

萩野 育恵

奈良時代の皇后について

田中 秀子

和泉和田氏を中心とする畿内在地領主制の展開について

奈良時代の皇親に関する一考察

寺谷 文夫

北林 久忠

齋宮について

西村 享子

天文の河内一向一揆の歴史的研究

鎌倉武士社会における女性の地位について

大嘗祭についての一考察

東谷 健吾

豊臣政権下における利休の政治的役割について

木原 由香

―大嘗祭の根源的なもの―

八世紀の皇后宮職について

袋尻 美幸

南北朝内乱期における佐々木道誉の人物像

皇親賜姓の意義について

松村 和子

南北朝内乱期における三種の神器の歴史的意義について

中務省について

水野裕三子

備後国における国人達の結び付きについて

功田と功封の一考察

南 友博

―安芸国を含め、毛利氏・杉原氏を中心に考察する―

東宮の機能について

三輪 大元

備前松田氏の領国支配について

八世紀中頃における皇権について

望月 英史

宇喜多分国の成立について

八・九世紀を通じての有力貴族層の衰退

矢瀧 順平

―直家を中心に―

天平期における日羅外交

川西 学

南北朝内乱期における三種の神器の歴史的意義について

鎌倉前期武家社会の女性について

浅井智保子

―北朝天皇踐祚からみて―

西浦 正博

後柏原天皇にみる中世王家の葬礼

旗禮 友紀

足利義教と世阿弥・音阿弥の關係

細川 秀樹

嘉吉の変後の幕府の動向について

八木 和美

初期足利將軍家の神祇信仰とその政治的意義

山内 政治

―特に足利義満を中心にして―

中世堺の史的分析―蕉軒日録を中心として―

吉村美保子

中近世社会における紅化粧について

吉村 優子

戦国期遠江国人衆の動向について

鈴木 健宏

☆ ☆ ☆

文久年間の対馬防備問題からみた対外侵略論形成について

荒木 靖男

近世歌舞伎興行に見る政治と民衆

浦野 真弓

近世大和における天保の飢饉とその対策をめぐって

大井 理恵

町式目から見た大坂町人の都市生活

岡 美穂子

近世南山城における村政と農民生活

鎌田えり子

近世大和における繰綿の流通構造の変化

河合 辰郎

天保期の儉約の歴史的意義

久保田 光

近世都市における防火意識と火災対策

栗原 佳奈

―江戸を中心として―

「間切公事帳」からみた近世の琉球王府と村落

崎原 盛俊

近世の出版統制令をめぐる書林仲間と社会の動向

笹原 友紀

近世京都の観光都市化をめぐる史的考察

武田 真穂

幕藩体制下の救民施設の思想と施策

田邊 圭介

近世初頭における岩国藩の成立について

友景 真一

奈良奉行所機構における行刑役と賤民について

瀬 規昌

長州奇兵隊

成田 雄毅

―その組織と性格の変遷について―

近世における長崎貿易と都市商人の動向

西村 陽子

近世大和の村落における共同・連帯精神の形成

沼平 太吾

長崎密貿易と近世抜荷取締令の考察

松尾伸一郎

近世中期以降のの家訓・店則にみる商人意識と家業経営

村井 崇弘

安政江戸地震における救済復興と震災「景気」

山城 明訓

近世後期における和菓子製造と家業の経営

山本 幸緒

近世的世界の形成と衆道の展開

赤木 剛

☆ ☆ ☆

近代日本史における共同体と個

青木 慶久

明治維新政府と鳥取士族との闘い

中尾 剛久

―福岡県青年集団の変遷―

琵琶湖汚染問題

中野 正邦

日本帝国主義下において朝鮮の

飯盛 康弘

―初期公害の認識―

仁木 信行

教育機関「書堂」の果たした役割

緒方 晶子

日本に於ける在日外国人問題

西尾 浩樹

洋装から見る日本近代化について

門永 共子

―愛知県に於ける指紋捺捺問題について―

馬場 俊二

沖繩戦研究の一視角

蒲田 浩二

戦後日本国民の「幸福観」

福永 康夫

―「臣民」としての沖繩人―

神谷 達也

戦争の文学者に与えた影響について

舟本 幸

「創氏改名」についての一考察

近藤 明宏

日本人の対米観の変遷について

三井 光代

アイヌ(旧土人)留学期成会の活動について

佐藤 啓典

敗戦時における日本人のいわゆる

「だまされた論」(被害者意識)について

―北海道旭川近文の事例―

大正デモクラシーと農民運動

―映画人伊丹万作の思想から―

大雲 裕之

―香川県を事例として―

伊勢湾台風を契機として―

一九三六・七年における衆議院議員総選挙について

―大阪を事例として―

災害対策基本法と自衛隊

堀本 真嘉

―国家樹立以前の氏族蒲氏集団―

岡田 愛

―綿作の衰退とその対応―

戦前の日本における厚生運動について

―唐代の音楽を中心に―

北魏孝文帝の政治

利光 佳希

木村 滋計

―東洋史―

壁面よりみた東洋の楽器

前奏について

大雲 裕之

明治期中河内地方の産業形態について

堀本 真嘉

―国家樹立以前の氏族蒲氏集団―

岡田 愛

―大阪を事例として―

戦前の日本における厚生運動について

―唐代の音楽を中心に―

北魏孝文帝の政治

利光 佳希

木村 滋計

壁面よりみた東洋の楽器

大雲 裕之

戦前の日本における厚生運動について

利光 佳希

北魏孝文帝の政治

木村 滋計

—とりわけ漢化政策について—

後期倭寇について

—日本人が海禁や貿易に与えた影響—

秦統一後の始皇帝について

—始皇の巡幸—

漢の皇太后について

元の大都について —水を主題に—

司馬遷「史記」の著述動機について

隋代における代表的官僚の動向

秦と法家思想の関係について

明代東アジアの国際秩序

—明清交代期の中琉関係を中心に—

清代の広東貿易について

—清朝・イギリス両国における広東貿易体制確立の意味—

インド洋地域における貿易陶磁

—北インド・ゲジャラートをめぐる商業活動と陶磁貿易—

後漢時代における知識人の政治活動について

☆ ☆ ☆

上海の租界について

—外国人と中国人—

清末の中央官制改革について

小石 敏之

【西洋史】

古代エジプトの葬祭について

—アプシール文書から計る葬祭殿の活動—

古代ユダヤ社会に関する一考察

—「ユダヤ戦記」にみるユダヤ人—

ポリス政治における宗教の役割

ソロンの改革下におけるヘクテモロイについて

古代エジプトの美術

—それを残した人々—

ミケーネ社会の村落共同体について

フェニキアの商業活動について

ユダヤ人迫害の起源について

—ヘレニズム時代におけるアンティオコス四世の迫害—

パルテノン神殿にみるアテナイ社会

古代エジプト人の生活と思想

ローマ帝国の拡大と道

プトレマイオス朝エジプト外交史

永野 勝章

井伊浩一郎

今尾奈緒子

大田 浩平

岡田 実

岡本 貴仁

尾崎 展之

川島 一晃

忽那 将史

酒井 益佳

高柳 典子

谷川麻衣子

福田 剛史

―クレオパトラ七世と共和制末期のローマー

ヒッタイトの鉄

藤原はるな

アレクサンドロス大王の帝国支配体制について

ハーメルンの笛吹き男伝説について  
ハプスブルグ朝の政治的展開

宮城裕賀子  
山本 由香

古代都市ポンペイに関する一考察

三和 賢治  
森田亜希子

―ローマ帝国および東地中海世界との関わりについて―

ネロ帝によるキリスト教迫害について

森田 あや

ケルト人の文化と社会

山川 康次

―ケルト人は野蛮な民族なのか―

☆ ☆ ☆

イギリス絶対王政について

青山 和美

十六、十七世紀のイギリスにおける魔女裁判

石原由賀子

アメリカ史における西漸運動について

稲葉 直幸

十字軍運動について

大平 大介

十字軍の変遷について

谷村 学

ドイツ宗教改革

中西 和也

ビザンツ帝国の隆盛

東野俊一郎

十字軍の展開

吹上 真徳

フランス革命の展開

松尾由美子

レコンキスタについて

松田 晃典

☆ ☆ ☆

古典期マヤ文明におけるテオティワカンの影響

井下 武志

第一次世界大戦後の中東

尾崎まどか

セオドア・ローズヴェルトの外交政策

金森 敬友

―極東政策を中心に―

ブラジルの日本宗教

菅原 信道

―真宗大谷派を中心に―

メキシコ植民地期のキリスト教美術について

高橋 裕子

―十六世紀教会堂建築を中心に―

マヤ文明 ―宗教について―

辻井 康子

アステカ社会に関する一考察

腹巻 友美

古代メソアメリカにおける文化について

藤田 照美

―たばこ文化を中心として―

ヒッタイト帝国について

進 卓真

―ヒッタイト帝国最盛期の歴史

シュビルリウマシユ一世の時代を中心に―

受贈雜誌及び圖書（自一九九六年十一月）  
（至一九九七年十二月）

雜誌

愛知大学総合郷土研究所紀要 第四二輯

愛知大学文学論叢 第一二一―二一五輯

愛大史学（愛知大学文学部史学科） 第六号

青森県史研究（青森県史編纂室） 第一号

アカデミア（南山大学） 人文・社会科学編 第六五、六

六号

アジアアフリカ言語文化研究（東京外国語大学アジアアフ

リカ言語文化研究所） 第五二、五三号

アジア研究所紀要（亜細亜大学アジア研究所） 第二三三号

アジアフォーラム（大阪経済法科大学アジア研究所） 第

一四号

岩手史学研究（岩手史学会） 第八〇号

宇佐風土記の丘歴史民俗資料館年報 一九九五、一九九六

年度

お茶の水史学（お茶の水女子大学読史会） 第二九、四〇

号

海南史学（高知海南史学会） 第三五号

学習院大学史料館紀要 第九号

漢学研究通訊（漢字研究中心） 第一五卷第四期、第一六

卷第一、二期

紀尾井史学（上智大学大学院史学専攻院生会） 第一六号

吉備地方文化研究（就実女子大学吉備地方文化研究所）

第八号

岐阜史学（岐阜史学会） 第九二二号

京都市歴史資料館年報 平成九年度

キリスト教史学（キリスト教史学会） 五一号

熊本史学（熊本史学会） 第七二・七三号

ぐんま史料研究（群馬県立文書館） 第七、八号

神戸大学史学年報（神戸大学史学研究会） 第二二号

国士館史学（国士館大学史学会） 第四号

堺研究（堺市市立中央図書館） 第二六号

史苑（立教大学史学会） 第五七卷第一、二号、第五八卷

第一号

史学（三田史学会） 第六六卷第二一四、第六七卷第一号

史観（早稲田大学史学会） 第一三六冊

史聚（史聚会） 第二九、三二号

史泉（関西大学史学・地理学会） 第八五、八六号

史窓（京都女子大学史学会） 第五四号

史叢（日本大学史学会） 第五六、五七七号

四天王寺国際仏教大學紀要 平成八年度

社会科学硏究（中京大學社会科学硏究科） 第一七卷第二

号

就実女子大學史学論集 第一一号

秋大史学（秋田大學史学会） 第四三号

上智史学（上智大學史学会） 第四一号

資料館紀要（京都府立総合資料館） 第二五号

人文論集（静岡大學人文学部社会学科・言語文化学科硏究

報告） 四七一、四八一号

スペイン史硏究（スペイン史学会） 第一一号

住友史料館報 第二八号

聖心女子大學論叢 第八八、八九集

西洋史学報（広島大學西洋史学硏究会） 第二四号

西洋史論叢（早稲田大學西洋史硏究会） 第一八号

ソーシアル・リサーチ（ソーシアル・リサーチ硏究会）

第二二号

創価大學人文論集 第九号

双文（群馬県立文書館） 第一四号

橘史学（京都橘女子大學歴史学会） 第一一号

地域硏究いたみ（伊丹市立博物館） 第二五、二六号

近松硏究所紀要（園田女子大學近松硏究所） 第七号

千葉史学（千葉歴史学会） 第二九、三〇号

中央史学（中央史学会） 第二〇号

津田塾大學国際関係硏究所報 第三〇号

敦賀論叢（敦賀女子短期大學） 第一一号

東海史学（東海大學史学会） 第三一号

東京大學日本史学硏究室紀要 第一号

東洋史苑（龍谷大學東洋史学硏究会） 第四六、四七号

東洋史訪（兵庫教育大學東洋史硏究会） 第三号

東洋大學文学部紀要 第五〇集 史学科篇二二二号

東洋文化学科年報（追手門學院大學東洋文化学科） 第一

一号

戸定論叢（松戸市教育委員会） 第一一五号

栃木史学（国學院大學栃木短期大學史学会） 第一一号

富山県立山博物館硏究紀要 第四号

奈良県立民俗博物館硏究紀要 第一五号

寧楽史苑（奈良女子大學史学会） 第四二二号

新潟県立文書館硏究紀要 第三号

新潟県立文書館年報 第四、五号

- 新潟史学（新潟史学会） 第三七、三八号
- 二松（二松学舎大学大学院文学研究科） 第一一〇号
- 二松学舎大学東洋学研究所集刊 第二七集
- 二松学舎大学論集 第四〇号
- 日本研究（国際日本文化研究センター） 第一五、一六集
- 日本思想史研究（東北大学文学部日本思想史研究室） 第二九号
- 日本文化研究所紀要（亜細亜大学日本文化研究所） 第三号
- 五、二六号
- 日本文化史研究（帝塚山短期大学日本文化史学会） 第二
- 日本モンゴル学会紀要 第二六号
- 日本歴史研究（日本歴史研究会） 第四輯
- 年報中世史研究（中世史研究会） 第二二号
- 年報日本史叢（筑波大学歴史・人類系） 一九九六
- 白山史学（白山史学会） 第三三三号
- 花園史学（花園大学史学会） 第一七号
- 東アジア研究（大阪経済法科大学アジア研究所） 第一四
- 一七号
- 兵庫教育大学研究紀要 第一七卷第二分冊
- 兵庫県の歴史（兵庫県史編集専門委員会） 第三三三号
- 弘前大学国史研究（弘前大学国史学会） 第一〇二号
- 広島東洋史学報（広島大学東洋史学研究会） 創刊号
- 福岡教育大学紀要 第四六号第二分冊 社会科学
- 仏教大学総合研究所紀要 第四号
- 法政史論（法政大学大学院日本史学会） 第二四号
- 北大史学（北大史学会） 第三六号
- 御影史学論集（御影史学研究会） 第三二二号
- 民具マンスリー（神奈川大学日本常民文化研究所） 第二
- 九卷第八一―一二号、第三〇卷 第一―四号
- 明代史研究（明代史研究会） 第二五号
- 明大アジア史論集（明治大学東洋史談話会） 創刊号
- 山口県史研究（山口県史編纂室） 第五号
- 鷹陵史学（鷹陵史学会） 第二二、二三号
- 横浜商大論集（横浜商科大学学術研究会） 第三〇卷第二
- 号
- 米沢史学（米沢史学会） 第二二号
- 立正史学（立正大学史学会） 第八〇、八一号
- 龍谷史壇（龍谷大学史学会） 第一〇七、八号
- 歴史（東北史学会） 第八七、八八輯

歴史研究（大阪府立大学） 第三五号

歴史人類（筑波大学歴史人類系） 第二五号

歴史研究（愛知教育大学歴史学会） 第四三号

歴史研究（大阪教育大学） 第三四号

歴史と地理 第四九六―五〇五号

和菓子（虎屋文庫） 第四号

## 図 書

愛知大学博物館学芸員課程実習報告書 一九九六年度

王朝の雅と和菓子展（虎屋文庫）

菓子型の世界展（虎屋文庫）

京都の医学―医家の資料―（京都市歴史資料館）

近世日本学の研究（中山広司著、金沢工業大学日本学研究

所研究叢書第一輯）

群馬県行政文書件名目録 第九集 明治期地理・租税編

（群馬県立文書館）

群馬県史収集複製資料目録 第四集 近代・現代史部会収

集資料（群馬県立文書館）

群馬県立収集複製資料目録 第一集―第四集総索引（群馬

県立文書館）

群馬県立文書館収蔵文書目録 15 多野郡上野村乙父黒沢

丈夫家文書（群馬県立文書館）

公儀勅方集（柳沢史料集成第五巻、柳沢文庫保存会）

小針遺跡（岡崎市教育委員会）

史諱辭典（王建著、愛知大学文学会叢書2）

下関市史「市制施行―終戦」、終戦―現在」、「民俗論」、

「資料編一、二、三」

莊園を読む・歩く（京都大学文学部博物館）

せいか歴史物語（精華町）

泉屋叢考第二三輯 近世住友の家法（住友史料館）

高岡魚問屋石川家文書目録（富山市日本海文化研究所紀要

第十号）

地図と史料でよむ京都周辺の歴史と文化（佛教大学史学科）

鳥獣戯草展（虎屋文庫）

朝鮮後期の慶尚道丹城県における社会動態の研究（二）

武田幸男編、学習院大学東洋文化研究所調査研究報告33）

津田塾大学国際関係研究所創立二十周年記念シンポジウム

記録 国際関係学の現状と展望

帝塚山短期大学図書館蔵 但馬国二方郡二日市村滝川家文

書―解説と目録―（帝塚山短期大学図書館）

豊川用水と渥美農村（牧野由朗編、愛知大学総合郷土研究所研究叢書11、岩田書院）

日米関係を軸にみた東・東南アジアの政治と経済（学習院

大学東洋文化研究所調査研究報告四五）

日本の国体に関する講演・講話（山田助治郎講話集抜刷）

日本の長所と短所（田村修著）

日本史学文献目録 一九九四年度版（朋文出版）

幕末幻の油絵師島霞谷（松戸市定歴史館）

花祭論（愛知大学総合郷土研究所編、岩田書院）

豊後国香々地荘四（国東半島荘園村落遺跡跡詳細分布調査

概報 大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館）

松戸徳川家資料目録第一巻、第二巻（松戸市戸定歴史館）

満生家文書目録一（筑紫野市文化財調査報告書第五四集）

三井文庫蔵史料 主要帳簿目録（京町替店等作成分）

山口県史講演会講演録（山口県史編纂室）

大和一代の傑僧隆光僧正の潔白を証す（隆光僧正を顕彰する会）

歴史上の人物と和菓子展（虎屋文庫）

和菓子で遊ぶ洛中洛外凶展（虎屋文庫）

## 編集後記

◇玉稿を頂いた松山宏氏、朝倉弘氏はともに、本学教授を  
退休された先生であり、南友博氏、永野勝章氏はともに、  
本年三月の本学の卒業生であり、北村麻子氏は昨年四月、  
本学に着任された新進の先生です。

◇第十五号の発刊です。次の第三〇号へ向けて、志学より  
而立へ向けて、心あらたに歩むつもりです。どうか今後  
ともよろしくお願いします。（S生）

## 奈良史学 第十五号

一九九七年十二月二十二日印刷  
一九九七年十二月二十五日発行

奈良市山陵町一五〇〇（六二二八五）  
奈良大学文学部内

発行者 奈良大学史学会

会長 明石岩雄

電話（七五）四四一―二二五―（代）  
振替 〇〇九九〇―二―三二五九九九

印刷所 株式会社田中プリント  
京都市下京区松原通菘屋町東入（千六〇―八〇四七）